

N210-1026T 任意波形作成手順

CD の¥html¥index.html ファイルも参照してください。

1 パルサーを停止状態にします

使用コマンド：STOP

このコマンドで、パルス出力を停止します。

2 動作モードを拡張モードに切り替えます。

使用コマンド：SETMODE <モード番号>

任意波形作成時には、1を指定します。

値	モード
0	定型モード
1	拡張モード

3 メモリーの初期化をします。

使用コマンド：MEMCLR

波形メモリーをクリアーします。

4 パルスを書き込んでいきます。

使用コマンド：MAKEPULSE <チャンネル番号>,<開始時間> ,<パルス幅>

チャンネル番号：0～15

開始時間：0以上（秒）

パルス幅：0以上（秒）

1シーケンスに必要な個数分、このコマンドを繰り返し実行します。

メモリーに、波形データを計算し書き込みます。

例1：

```
MAKEPULSE 1,0.2,1u
```

チャンネル1に、シーケンス先頭から0.2秒後に、1 μ Sのパルスのデータをメモリーに計算します。

例2：

```
MAKEPULSE 1,45m,10m
```

```
MAKEPULSE 2,48m,55m
```

```
MAKEPULSE 1,70m,10m
```

とすると、図1のようなパルスを作成します。

5 繰り返し位置の設定を行う。

使用コマンド：MAKECOMMAND <時間>,<コマンドコード>,<コマンドデータ>

ここでのコマンドコードはボード上の時間データです。T31～T0です。“0x”以降に16進数で指定してください。

例：MAKECOMMAND 100m,0xff200000,0

100msの位置に繰り返し点を設定します。

6 ボード停止コマンドの設定を行う

。使用コマンド：MAKECOMMAND <時間>,<コマンドコード>,<コマンドデータ>

上記繰り返しを同様に設定します。この場合トリガー位置なので、

例：MAKECOMMAND 101m,0xff400000,0

とします。コマンドは同一時間に複数設定できないので、この場合は時間を 1 m S ずらします。

7 パルス出力します。

使用コマンド：START <繰り返し回数>

例：START 100

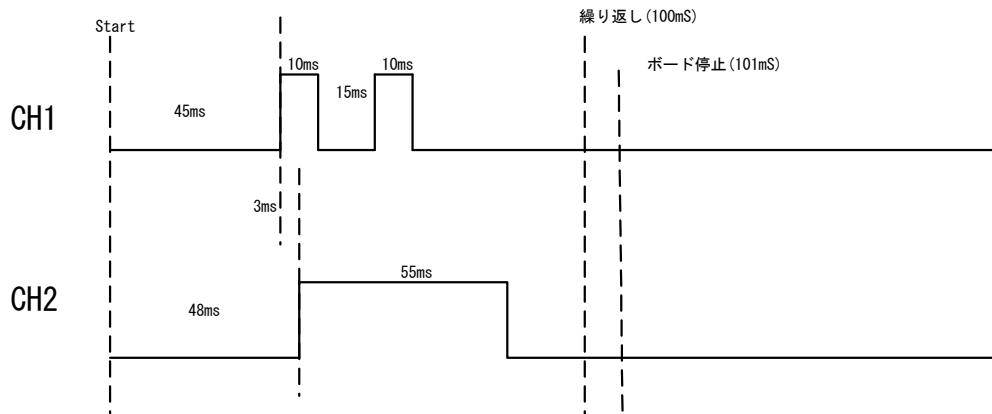
パルスを 100 回分出力し停止します。

8 再出力する場合

すでにメモリーにはセットしてあるので、START<繰り返し回数>コマンドのみで、再出力可能です。

図 1

上記項目 3 の例 2 のパルスを作成した場合のパルス



9 補足事項

makecommand は、ボードのシーケンス内にコマンドを埋め込む命令です。

使用用途は

1. 繰り返しポイントを設定をする。
2. トリガーポイントを設定する。
3. シーケンスの停止ポイントを設定する。
4. ボードの割り込みポイントの設定をする。(このシステムでは使用不可) となります。

9.1 繰り返し点の設定法

makecommand <時間>,0xff200000+ <繰り返しメモリーアドレス>,0

注：現時点では、メモリーアドレスは、0 としてください。

9.2 トリガーポイントの設定法

makecommand <時間>,0xff80000,0

9.3 停止ポイントの作成

makecommand <時間>,0xff400000,0

9.4 ボードの割り込みポイントの設定（現システムでは使用不可）

makecommand <時間>,0xff100000,0

CD の¥html¥index.html ファイルも参照してください。